ねんどの島に めいろをつくって
–粘土の板に いろいろな線をかこう–

笠原　彩　（和歌山大学教育学部附属小学校）

題材コンセプト

粘土板に刻まれていた楔形文字は、書いては消し何度でも使うことができ、残す必要があれば焼成して保存することができる画期的な記録方法であった。私たちは粘土のようなやわらかい板状のものがあれば、そこに指を押しつけたり、自然に線や絵を描きたい衝動に駆られる。粘土板は特別な道具がなくても自由に線やかたちを操作でき、また道具によってさまざまな線の表情をつくることも可能である。粘土の特質を生かした多様で魅力的な線を生みだす題材として、粘土板ドゥローイングを提案する。

1．題材について

粘土は、子どもの手や指先の微妙な操作をそのまま立体的な形として残す。「線」を指やヘラで粘土につけるときも、押しつぶされたり抉られたりした痕跡として表れる。それは粘土の物質性とそれによってつくり出される「線」であり、紙に鉛筆で描いた線とは明らかに異なる。

本題材は、粘土を平らに延ばした粘土の板（ねんどの島）に指先や道具を使って線（迷路、道）をつくるものである。子どもが粘土に「線」を描くとき、指先に伝わる粘土の弾力や抵抗感を味わい、道具を使って生まれるさまざまな線を目で確かめながら楽しむことだろう。

2．学習目標（第 2 学年）

(1) 油粘土の感触を楽しみ、線を描くことに興味を持って取り組む。

「ビー玉を転がして道をつくろう。」

(2) 「ねんどの島」や「迷路」からイメージして、指や道具を使っていろいろな線とかたちを繰り返し試す。

(3) 自分のつくりたい道のイメージに合わせて道具を選んだり、線の描き方を工夫する。

(4) 自分の作品を友だちに紹介したり、友だちの作品のよいところを伝える。

3．学習の流れ・指導計画

■第一次：「ねんどの島」をつくろう。

粘土板を海に見立て、粘土の大きな島をつくる。

■第二次：ねんどの島に「迷路」をつくろう。

出来上がった「ねんどの島」を探険するための「迷路（道）」をいろいろな道具を使って描く。

■第三次:「ねんどの島めぐり」をしよう。

タイトルカードを付けて、友だちの島へ遊びに行ったり自分の島を紹介する。

4．指導のポイント・学びのフォーカス

本題材は「いろいろな線」を描けることがめあてのひとつである。線描で単なるお絵描き（お花や女の子、文字など）にならないように、「迷路」をつく

るという課題を与えることが、多様な線を生みだすことにつながる。

第一次では、粘土の物質性を生かすために粘土の厚みが**1**㎝より薄くならないように注意したい。道具の使い方も、工夫している子どもの作品を取り上げるなど、単純な線にならないような支援が必要である。「島」の基本的な作り方は、**3〜5**㎝四方の粘土の塊を指で**1**㎝程度につぶして粘土板に貼り合わせていく。

第二次では、なるべく複雑で長い迷路になるように、また、いろいろな線の道になるように準備した道具を工夫して使うことを伝えておく。教師が準備した道具は粘土ベラ（プラスチック製と竹製）、ペットボトルのキャップ、**PP**ロープ、シュロ縄、ゼムクリップ（大）、ビー玉である。粘土ベラは細い線、ペットボトルのキャップは側面のギザギザ面を転がしたり、エッジを使うなど、ロープ類は押しつけて型を生かす、クリップはU字型の部分で粘土をえぐり取って、ビー玉は粘土に押しつけて転がすなど道具を使い分けることによって、さまざまなテクスチュアの線ができる。

5．鑑賞と批評

子どもたちにどうすれば粘土を使った「線」の魅力を伝えられるのか不安であった。しかし、「島」をつくるところから楽しそうに始まり、夢中になって自分の「線」をいろいろ試している姿が見られた。子どもにとって粘土という素材は魅力的なのだ。「先生、これどうやって作ったと思う？」「この島はねえ、お化けの島！」「川もつくってみたよ。」と、いろいろな報告をしてくれる。

作品**A**は粘土ベラで直線的で複雑な線を描いた。ヘラの反対側で点を打った道をつくり、変化をつけている。作品**B**は、クリップで抉って道をつくった。渦巻（ヘビ）もポイントになっている。作品**C**は、ビー玉を転がしてできた線。想像以上に力を入れて押しつけないと、この道はできない。輪郭のやわらかなその線の陰影と、ヘラでつけたシャープな線が交差して美しい。

指で直接触る感覚や道具を使って伝わる心地よい感覚が、子どもの創造力や創作意欲に働きかけたのだろう。生まれた線は実にさまざまであり、抽象絵画のような作品性も感じられた。

作品**A**　和歌山大学教育学部附属小学校**2**年生
指導：笠原　彩，**2011**

作品**B**　和歌山大学教育学部附属小学校**2**年生
指導：笠原　彩，**2011**

作品**C**　和歌山大学教育学部附属小学校**2**年生
指導：笠原　彩，**2011**